

環境生命科学研究科（博士前期課程）各専攻における人材養成の目的

【社会基盤環境学専攻】

本専攻では、人間活動の主要な舞台である都市と農村を対象として、社会経済活動とそれを支える開発が環境に及ぼす影響を明らかにするとともに、環境と調和した地域社会を実現していくための社会基盤と空間の創出、並びに大気、水、土壌、生物等の資源の持続的利用や循環の維持管理に関する計画と技術の発展を担う人材を養成する。

【生命環境学専攻】

環境、食料、医療等の国民の安全や安心に関わる課題や問題の解決を目指し、持続可能な循環型社会構築に対して主導的役割を担うことのできる人材育成を目指す。生態学及び社会科学的知識・技能を備えた人材及び環境や医療に関わる幅広い知識を持ち、それに対処するための保健医学、数理科学、統計学などの技術を持った人材を養成する。

【資源循環学専攻】

本専攻では、環境負荷を小さくし、資源の枯渇を抑制できる持続可能な社会の構築を目的として、物質・資源のリサイクルの促進、廃棄物の最適管理、より安全で適切な最終処分法の開発等に関するマネジメントの確立、環境低負荷型の材料やプロセスの開発、資源のリサイクルやエネルギー変換技術の開発等について、問題設定と解決に向けた技術開発等の能力を備える人材を養成する。

【生物資源科学専攻】

動植物や微生物の生命現象の解明、食に関わる現象の解明や人類の直面している食料・環境問題の解決のために、有機化学、生理・生化学、遺伝・育種学、バイオテクノロジー、グリーンケミストリー等の手法を駆使して教育・研究を行う。このような教育・研究活動を通して、生命科学の最新の知識と高度な専門技術を備え、生物資源の持続的な高度利用や、食料や食品・環境問題などの解決において中心的役割を果たし、国際的にも活躍できる有能な研究者や技術者を養成する。

【生物生産科学専攻】

食料の生産と分配、生物多様性の解明とその維持等、生物生産科学に関わる問題が地球規模で深刻化しつつある。それらを解決するために、動植物や微生物の生産に係わる多面的な知識を基盤として、基礎から応用、さらに、生産の場から流通にいたる総合的視点に立脚した教育と研究を行う。これによって、広範で深い専門的な知識を持ち、問題解決能力及び研究開発能力を備える人材を養成する。

環境生命科学研究科（博士後期課程）各専攻における人材養成の目的

【環境科学専攻】

「持続可能社会構築」を共通する学問理念として、環境と調和した都市・地域空間の創出と管理、生物多様性や生態系保全、食糧問題、医療の疫学・数理科学的な側面、循環型社会及び低炭素社会の構築、環境低負荷型材料やプロセスの創成等に関わる課題の解明を進めている。このような環境科学に関する幅広い分野の教育と研究を通じて、持続可能社会の構築を自立して遂行する能力とそれをささえる豊かな専門的知識を有し、さらに、リーダーシップを発揮し、国際的にも活躍できる研究者や高度専門職業人を養成する。

【農生命科学専攻】

生態学、生理学、細胞生物学、遺伝子科学、生化学、有機化学、分析化学などの手法によって生命現象を解明する基礎分野から、動植物や微生物を利用した生産技術や環境保全技術の開発、機能性食品素材・医薬品の開発及び生物の多様性の維持などの応用分野に関する教育・研究を行う。このような教育・研究活動を通じて、直面する課題の解明を自立して遂行する能力とそれをささえる豊かな専門知識を有し、リーダーシップを発揮して、国際的にも活躍できる高度な研究能力と豊かな創造性を備えた人材を養成する。